

名門剣道場「柏武道館」卒業生らの支援で復活へ

OBの工藤電業工藤賢作社長、保護者の田中愛さんら巨額を投資



田中オーナー(中央)と工藤社長(右)、伊藤広報が手を取り合い、柏武道館の新たな1ページを書き加える

南増尾にある剣道場「柏武道館」が近年、卒業生らに支えられ、新たなステージを迎えている。前身の清心館時代から教士として指導し、半世紀近くわたって柏武道館代表を務めた菅野豪氏(82)から、卒業生の保護者である田中愛氏(40)がオーナーとして引継ぎ、井上司新代表(70)の下、日本一をめざしている。建設から半世紀以上になる道場は老朽化が著しかったが、卒業生らのクラウドファンディングに加え、卒業生で新柏に千葉本社を構える工藤電業の工藤賢作社長(55)が巨額を投じて、改修に尽力。現在、屋根と外壁工事が進み、6月頃に完了を見込む。田中オーナーはすでに敷き替えた道場の床をみつめ、「多くのご支援で道場は成り立っている。日本一になって恩返しを」と決意を語った。

柏武道館は、昭和50年に菅野氏を代表として始動した。前身の清心館のはじまりの詳細は不明だが、地元市議会議員を務めた小川富蔵氏が「青少年健全育成のため」と私財を投じてスタート。菅野氏が指導した時代に全国区の剣道場として名を馳せ、一般社会人と中学生(逆井中学校剣道部として)で日本一に輝いている。

工藤社長は全盛期に活躍した剣士のひとり。未就学時から通い、高校卒業まで磨いた腕は剣道三段。柏武道館は青春であり、思い出深い場所だという。

工藤社長は令和元年に隣接地を1200万円で購入し、駐車場として道場に寄贈している。今回の修繕費用にも約835万円を投じ、「育ててもらった場所への恩返し」と工藤社長は話す。

道場は少なくとも50年

以上が経過し、広報の伊藤直哉さん(45)によると、床はところどころ抜け落ち、補強しても腐食し、安全性の担保が難しくなったという。

また、同時に菅野代表が閉館を模索。当時、保護者のひとりだった田中オーナーは「なくすわけにはいかない」と訴え、夫婦で子どもの将来のために貯蓄した2千万円で道場を買い取った。「子どもを育ててもらった場所だから」と田中オーナー。

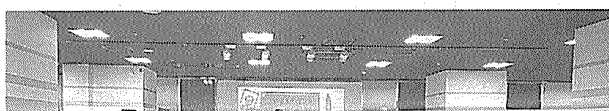
田中オーナーが最初に直面したのは、床の修繕だった。苦肉の策で修繕費用をクラウドファンディングで募ったところ、卒業生らから次々と寄付が集まり、260万円を確保。さらに別途寄付も集まり、一部道場負担はあったものの、床の改修を今月初旬に終えた。

さらに、当時、駐車場の整備状況を確認しに

た工藤社長が劣化した屋根や外壁の修繕を申し出てくれた。「2代目オーナーががんばってくれていたのですね」という思い」と工藤社長。

小川氏が土壌を作り、菅野氏が蒔いた種が芽吹き、多くの卒業生が水をやって、柏武道館は次のステージに進む。田中オーナーは「周囲の協力あつて今がある。だからこそもう一度、日本一の道場に」と意欲を示した。

柏市民活動フェスタに過去最大84団体



市民活

なんかし感謝祭初開催
グルメNo1を決定